

生命の起源と進化を『あばく』ために
東京薬科大学 生命科学部
博士後期課程 2年 河口優子

生命の起源を解明するためには単独の分野からのアプローチのみではなしえない。生命の起源と進化学会はまさに、様々な分野の研究者が自身の専門分野を軸に、生命の起源を『あばく』とした成果を聴く事ができる。自身は生命科学を専攻しているが、他の学会ではなかなか出会う事ができない分野の研究者とお会いし、議論する事ができる。さらには、自身の研究を他分野の研究者の前で発表する機会を頂ける。思いもよらない質問や疑問をなげかけられることで、新たな切り口のアイデアを着想し、自身の考えの足りなさを痛感することが多い。

今回の学会発表を行うにあたって、準備は非常に苦しいものとなった。解析を行いつつ、考察し、発表をまとめる、という行為を同時並行で行ったからだ。この実験結果がどこに向かってしまうのだろう、と暗闇をさまよう感覚におそわれたときもあった。結局、まだまだ自分の中で考えがしつかりとまとまっていなまま本番を迎えた。発表が終わったと同時に、次はもっともつと分かりやすい発表を行おう、とやる気がおきた。また、私は宇宙実験という大きなプロジェクトに関わり、多くの研究者の方々と協力して実験を進めている。私が発表する内容は共同研究者のみを代表している、という責務を強く感じた。

博士後期課程の終了を見据え、来年の本学会ではぜひとも先生に「面白い」と言わせてみせるような研究発表を行えるよう精進していきたい。また生命の起源と進化の分野を背負って立てるような研究者へと成長していきたいと考える。

本発表を行うにあたり本学会より補助をいただき、さらには Viva Origino に投稿する機会を頂いたことを心より感謝いたします。これを機会に本学会の発展に貢献出来る様に精進していきたい。

第 37 回生命の起源および進化学会
学術講演会への参加紀行文
横浜国立大学院 工学府 機能発現工学専攻
先端物質化学コース 小林研究室
修士 1 年 川本幸徳
kawamoto-yukinori-tf@ynu.ac.jp

2012 年 3 月 7 日から 9 日までの 3 日間にかけて行われた第 37 回生命の起源および進化学会学術講演会に参加しました。私は現在就職活動を行っており、自身の研究成果を発表した翌日にも東京で面接があったため、自身の発表が終わるとすぐに神奈川に帰らなければなりません。そのため、関連研究分野の興味のある方々の発表をほとんどお聞きできなかったのは非常に残念でした。この度、紀行文の作成という場を頂きましたので、今回の学会発表で感じたこと、考えたことについて記したいと思います。本学会で私は「模擬惑星間塵環境下でのアミノ酸関連物質の軟 X 線・紫外線に対する安定性評価」という題目で発表いたしました。本研究は、軟 X 線・極端紫外線のような高エネルギーの光子が曝露される惑星環境でのアミノ酸関連物質の存在安定性について評価を行い、種々の有機物質が地球降着後に生命起源への寄与について研究した結果を発表いたしました。質問では、自身の勉強不足もありますが、今まで考えたこともなかった疑問点を発見することができ、本学会での発表は私にとって非常に有意義なものとなりました。

また、個人的なことですが、本学会での発表は 2 回目であり、昨年の自身にとって初めてとなる学会発表の際に経験した「発表中に頭の中が真っ白になってしまった」、「早口になってしまった」、「終始相手にわかりやすく口頭発表を行うことができなかった」という数々の失敗を活かすことができる絶好の機会でもありました。説明中に嘔むたびに「すみません」と連呼したり、発表中に頭の中が真っ白になったりした昨年と比べると、本年はさほど緊張せず、比較的胸を張って発表することができ、この一年間での自身の成長を実感することができました。しかし、研究内容に関する知見はまだ勉強不足であり、結局昨年同様小林先生に助言を求める結果になってしまいました。加えて、簡潔明瞭に研究成果を発表することも及第点には至っておらず、今後ともより一層勉学に励もうと発起するきっかけとなりました。もしも来年またこの場をお借りして発表する機会が与えていただければ幸いです。今度こそ自身のベストを尽くし、3 年間の研究成果の集大成を発表したいと考えております。最後に、この度貴重な研究発表の場所をお借りできたこと、またご指導ご鞭撻を行って下さった皆様方に、心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。